

(4) 地域ぐるみの ESD 活動の推進

●業務目標

SDGs/ESD に取り組むユース世代が取組の発信・相互交流を行う場をすることにより、ユース世代における SDGs/ESD に関する取組の推進・深化を促し、もって地域ぐるみの ESD 活動を推進する。

ア、地域 ESD 拠点登録の状況（令和4年3月31日時点）

各県に複数の拠点登録を目指すとともに、多様な分野からの登録に向けて重点的な登録周知・呼びかけを行う。

また、基本業務・地域循環共生圏推進業務において実施される場づくり等の情報を積極的に提供し地域 ESD 拠点のネットワーク活動を活性化させる。

	拠点	主な活動分野	県
1	鹿島市建設環境部 ラムサール条約推進室	地方自治体	佐賀県
2	国立大学法人 福岡教育大学	大学	福岡県
3	大牟田市教育委員会	教育委員会	福岡県
4	公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金	助成団体	熊本県
5	北九州 ESD 協議会	REC	福岡県
6	一般社団法人 環不知火プランニング	教育旅行	熊本県
7	認定 NPO 法人 地球市民の会	国際協力	佐賀県
8	公益財団法人再春館一本の木財団	助成団体	熊本県
9	一般財団法人沖縄県公衆衛生協会	温暖化センター	沖縄県
10	国立諫早青少年自然の家	青少年	長崎県
11	NPO 法人おおいた環境保全フォーラム 附属はざこネイチャーセンター	環境教育	大分県
12	NGO 福岡ネットワーク	国際協力	福岡県
13	九州大学 水素エネルギー国際研究センター	大学機関	福岡県
14	宮崎県環境情報センター	情報センター	宮崎県
15	NPO 法人 おきなわ環境クラブ (OEC)	環境教育	沖縄県
16	NPO 法人 くすの木自然館	環境教育	鹿児島県
17	そらのまちほいくえん	幼児教育	鹿児島県
18	一般社団法人 沖縄県婦人連合会	女性団体	沖縄県
19	国立阿蘇青少年交流の家	青少年	熊本県
20	屋久島環境文化研修センター (公益財団法人屋久島環境文化財団)	環境啓発	鹿児島県
21	国立夜須高原青少年自然の家	青少年	福岡県
22	一般財団法人 鹿児島県環境技術協会	温暖化センター	鹿児島県
23	特定非営利活動法人 Okinawa Hands-On NPO	環境教育	鹿児島県
24	学校法人宮崎学園	学校教育	宮崎県
25	一般社団法人まほろば自然学校	環境教育	福岡県
26	NPO 法人 HUB&LABO Yakushima	環境教育	鹿児島県

※網掛けは今年度登録拠点

イ、令和3年度登録呼びかけ計画・実績

団体名称	対応・連携等
特定非営利活動法人 Okinawa Hands-On NPO	相談対応の上、今年度拠点登録。
一般社団法人まほろば自然学校	相談対応の上、今年度拠点登録。
NPO 法人 HUB&LABO Yakushima	相談対応の上、今年度拠点登録。
熊本県内大学組織	登録に向けて提案中
大分県内 NPO 法人	登録に向けて提案中
大分県内行政組織	登録に向けて提案中

ウ、令和3年度環境活動ユース交流会

持続可能な社会の担い手であるユース世代の交流を促進し、地域ぐるみのESD推進を目的として環境活動に取り組む高校生の交流会を実施した。

交流会のプログラムにおいては、先進的な取り組みを行う学校と、SDGs推進に取り組む企業、また若手起業家、同じくユース世代の環境活動家などに登壇いただき、高校生に自身の活動延長上にSDGs達成があり、地域の持続可能性が存在するという意識を醸成した。

催事名	令和3年度 環境活動ユース交流会
目的	先進的な取り組みの共有をとおして、学校で地域課題解決に向けて活動する高校生、教員、環境保全活動の実践者の情報交換を行う。 九州/沖縄地域で、環境保全活動に取り組む関係者の交流を促進し、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた活動の推進、地域循環の構築に向けた多様なアイデアを共有する交流会として開催する。
開催日時等	日時：令和4年3月16日（水） 16:00-17:45 開催形態：オンライン併用 主催：九州地方ESD活動支援センター 協力：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
概要	参加人数：30名（九州・沖縄地域の高校生、教員、ESD実践者、事務局） ユース支援の取り組みである全国ユース環境活動発表の概要を、主催である環境再生保全機構より説明し、取り組みの周知と新規応募を促進した。 また全国大会進出校である大分工業高等学校の生徒、担当教員から活動発表を行い、活動のきっかけや継続のポイントについて説明がなされた。 同校プロジェクトチームの取り組みについて、SDGs目標達成や地方創生において先進的な事業展開を行うリコージャパン(株)から2名、大学在学中から企業を行いソーシャルビジネスを展開する株式会社STEAH CEO、そして立命館アジア太平洋大学においてソーシャルプロジェクトに取り組む学生チームからそれぞれエールコメント、アドバイスセッションを設けた。 質疑応答では、各学校から環境保全と学校活動との両立や、生徒への働きかけについて具体的な質問が寄せられ、登壇者が回答を行った。 <次第> 1. 開会挨拶・趣旨説明 2. ユース環境ネットワークの紹介 情報提供：独立行政法人 環境再生保全機構 福田 晃二郎氏 3. ユースによる環境活動事例の紹介 情報提供：大分県立大分工業高等学校 DAIKO 風車プロジェクトチーム

	<p style="text-align: right;">担当教員 佐藤 新太郎氏</p> <p>活動へのコメント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコージャパン(株) 自治体文教事業部 河野 千家子氏 ・リコージャパン(株) 大分支社 大分営業部 部長 徳永 佳紀氏 ・株式会社 STEAH CEO 田畑 春樹氏 ・APU 学生チーム ASKA・モリノエビ 若林 快卓氏 <p>4. 意見交換・質疑応答等 活動紹介学校、コメントゲスト、参加学校（教員／生徒）による活動情報交換 ご参加の皆様からの質問、感想など 進行：九州 ESD センター（EPO 九州）</p> <p>5. 閉会挨拶</p>
アンケート 回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点での授業内容について知ることができて良かった。特に、専門高校の事例だったため、実習や課題研究でも取り入れ方が参考になった。 ・学生の積極性と活動を通じての成長、教員や企業など大人のサポートなど、全体的に地域社会で人材育成しようという前向きな雰囲気を感じられた。また、思っていた以上に「STEAM 教育」の存在が知られていないことも分かり、弊社にとっても今後の教育現場との協同や SDGs 活動推進に向けたヒントもいただいた。 ・自分が日頃あまり勉強できていない工業分野の発表を聞くことができ、大変貴重な機会でした。 ・とても素晴らしかった、とてもいい体験をした。また参加したい。 ・大分県内の事例を知れたのでよかった。発表者や登壇者のような参加する上での立場を設けずフラットな関係性にすることで、もう少し深い議論が行えたのではないかと思う。 ・高校生の活動事例の交換ができ、教師や高校生同士も刺激になると思う。 ・非常に興味深い内容だった。APU 内でも様々な環境保全活動が存在しているため、大学生向けのものがあっても面白いと思った。高校生の参加者と大学生の参加者の交流が生まれると、ユースのより継続的な活動が期待できると思う。 ・どのような生徒が活動されているのか、また、こういった背景で今回の活動がはじまったのかを教育の視点からお話を聞くことができ良かった。 ・これまで学んだことを「課題研究」の時間を通して応用して、課題解決や夢の実現につながっており、とても参考になった。学科の特技や強みも活かし、学校全体で取り組まれていており、うらやましく思う。 ・高校生の質疑への受け答えを見て、本プロジェクトを通じて自信をつけたことが伝わってきた。 ・生徒の着眼点、活動方法、共感による地域との結びつき方など、とても参考になりました。 ・高校生にとっても企業（実際に社会貢献している組織）の方からコメントをいただけることは貴重な経験だと思う。また、今後の活動の意欲や新しい視点で取り組めるきっかけになると思うで良かったと思います。今回の登壇者のように大人がコメントする際は上からではなく、対等にコメントすることが大切なことを改めて感じた。 ・それぞれソーシャルビジネスに取り組まれる方々からのアドバイスは、高校生たちにとって将来を考える上で非常に参考になっただろうと感じた。 ・それぞれの立場からの独自の意見を聞くことができたが、どの意見も根本にある考え方は同じで、ある種日本のサステナビリティが今後目指すべきものが見えたようでよかった。 ・高校生の感想や意見を聞くことができ良かった。本校生徒にも刺激になったようだ。 ・インタラクティブ性があってもよかった。ブレイクアウトを活用するなどして、2、3ラリーのキャッチボールができるとより議論も深まったように感じる。

写真	
----	--

(5) 全国センターとの連携

全国センターが開催・招集する連絡会に出席し、九州地方センターの取組・成果を発信するとともに地域 ESD 拠点登録の方針や目標設定等について意見交換を行う。また活動状況調査等については積極的に協力・対応を行った。

■連絡会対応

催事名	令和3年度第1回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
目的	全国、及び地方 ESD センターの運営状況や今年度事業展開計画について共有を行い、令和3年度以降、ESD 推進ネットワークが目指す方向性について議論を行う。また全国と地方間で連携して行う具体的なアクションについて共有する。
開催日時等	日時：令和3年5月27日（木）10:00-12:00 会場：オンライン 主催：ESD 活動支援センター
概要	<p>全国センター運営団体の二カ年目の運営となり、継続した地方センターとの連携維持、強化が求められる中、第一回連絡会開催に出席した。</p> <p>文部科学省より、第2期 ESD 国内実施計画の策定状況や、ユネスコ国際会議の報告が行われた。</p> <p>また環境省からは、環境政策の動向や促進法実施状況調査結果概要について情報提供が行われた。</p> <p>全国センターからは、地域 ESD 拠点に実施したアンケート結果共有が行われるとともに、可視化タスクフォースの今年度活動方針、また地域拠点への支援方針について検討を行った。</p> <p>そして例年開催される全国フォーラムの日程が共有され、今年度から開始される「分科会」活動の実施方針について、全国、地方間で意見交換を実施した。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会、新任者紹介 2. ESD を巡る最近の動向 3. 地域拠点アンケートについて 4. 全国フォーラムの日程、会場について 5. 分科会活動について

行事名	令和3年度第2回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
目的	全国、及び地方 ESD センターの今年度活動状況について共有を行い、次年度以降の、全国と地方センター間で連携について協議を行う。

開催日等	日時：令和4年1月26日（月）10:00-16:00 会場：オンラインと対面の併用（青山ブックセンター会議室）
概要	<p>まず、各地方センターから令和3年度の支援活動の状況について共有が行われ、九州センターからもESD推進ビジョン策定プロセスを含めた情報提供を行った。</p> <p>また全国センターからは、可視化タスクフォース及び実施した有識者ヒアリングの成果から、ESD推進ネットワークの成果と課題に関する提言骨子が提案された。</p> <p>開催された全国フォーラムと、事例集の作成方針について情報提供された。</p> <p>そして、一連の令和3年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」に関する総括を含め、Webサイトの改修を含めた推進ネットワークの今後の方向性について議論を行った。</p> <p>環境省と文部科学省の施策の方向性についても、担当官より情報提供が行われ、各センターとの意見交換を行った。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 【報告】2021年度活動状況（地方センター） 3. 【報告】2021年度活動状況（全国センター） 4. 【報告・協議】2021年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」総括 5. 【協議】ESD推進ネットワークの今後の方向性について 6. 【報告】2022年度環境省・文部科学省の施策の方向性

■全国フォーラム対応（ESD活動支援センター主催）

全国センターが開催・招集する連絡会に出席し、九州地方センターの取組・成果を発信するとともに地域ESD拠点登録の方針や目標設定等について意見交換を行っている。

また、九州・沖縄地域のみならず、全国の地域ESD拠点からの相談にも、地方ESDセンターのネットワークにより効果的な対応を進めている。

分科会において、東北・四国・九州センターとともに「SDGsを活用した教育×地域のチャレンジ」をテーマに企画運営。地域コーディネーターのハブとしての重要性と、ESDセンターによる地域ESDネットワークの形成支援のプロセスについて共有した。

催事名	ESD推進ネットワーク全国フォーラム2021 「ESD for 2030のキックオフ」 ～脱炭素社会づくりに向けたESD推進ネットワークの役割～ 分科会テーマ：「SDGsを活用した教育×地域のチャレンジ」
目的	ESD推進ネットワーク全国フォーラムとして、ESD推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESD推進ネットワークについて理解を深め、ネットワークの形成を促進するとともに、全国各地の実践事例を学ぶ。
開催日時等	日時：令和3年12月11日（土） 9:30-16:30 開催形態：オンライン 主催：ESD[活動支援センター、文部科学省、環境省] 協力 ESDを推進する全国・地方の組織団体（出展団体）、 地方ESD活動支援センター（北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・ 四国・九州）
概要	●分科会における事例報告 「学校における脱炭素教育 ユネスコ協会によるコーディネート事例」

	<p>公益社団法人仙台ユネスコ協会 副会長 内藤 恵子 氏 「高校におけるエコ改修とESD 公務員コーディネーターによる連携促進」 島根県環境生活部環境政策課 企画員 角 俊一 氏 「中学校におけるキャリア教育 地域コーディネーターによるマッチング」 熊本市立城南中学校 地域コーディネーター 岡 裕二 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> • コメンテーター 東北ESDセンター企画運営委員長 見上 一幸 氏 • 参加人数：フォーラム：478名（延べ人数）内、本分科会参加者52名
開催状況の 写真等	

5. 外部連携事業（外部資金を活用した取組）

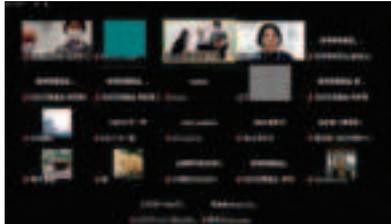
持続可能な社会づくりに向けた協働取組を担う民間団体等の育成に向けて、地球環境基金や民間企業等と連携し組織運営や資金獲得に向けた助言等を行う。また、基金団体等からの外部資金（EPO九州運営業務以外の契約業務扱い）を活用した取組として実施した。

（1）地球環境基金との連携

環境 NGO 等への助成や高校生の環境活動表彰に取組む地球環境基金と連携し、次の取組を行った。

ア、助成金説明会の開催協力

環境 NGO 等への助成や高校生の環境活動表彰に取組む地球環境基金と連携し、令和 4 年度助成公募の説明とともに、これまでに地球環境基金助成を受けた活動について事例紹介を行い、助成金獲得を志す団体への後押しとなる情報提供の場作りを行った。

催事名	地球環境基金 助成金説明会 長崎会場
目的	地球環境基金による令和4年度助成公募についての説明会を開催し、活動団体への助言や申請についての支援を行う。開催にあたっては、開催地域である長崎市の中間支援団体や自治体等と連携する機会とする。
開催日時等	日時：令和3年11月4日（木）18:30-20:00 会場：長崎ブリックホール 第3・4会議室（長崎市） 開催形態：ハイブリッド 主催：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス、一般社団法人九州環境地域づくり
概要	参加人数：20名 地球環境基金の令和4年度助成公募の説明会を長崎県で実施した。 地球環境基金助成事業について、公害資料館ネットワークに事例紹介いただき、助成金の申請書および計画書の作成、助成決定後の進捗報告、経理処理、報告書の作成等の具体的な事例から、助成を受けることで組織体制の強化が図られることを参加団体に周知した。 <次第> 1. 主催者挨拶 2. 助成先団体の活動事例紹介 公害資料館ネットワーク 林 美帆氏、友澤 悠季氏 3. 質疑応答
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な支援メニューがあり、とても魅力的な助成金と感じました。 ・とても手厚いサポートをされる素敵な助成だなと感動しました。 ・動画を見てから臨んだので大まかなところがわかった上で参加できた。 ・計画や、報告書など、沢山書くことがあるということは、ホント仰られていた通り、自身の活動をより深く考え、整える大切なことに繋がると思います。
開催状況の写真等	 

イ、地球環境基金 助成事業への協力

催事名	第8回公害資料館連携フォーラム in 長崎
目的	地球環境基金の助成事業であり、協働取組全国事業を契機として発足展開された「公害資料館ネットワーク」について、今年度は長崎でフォーラムが開催され、EPO九州は実行委員として、広報、当日の運営についての支援を行う。
開催日時等	<p>日時：令和3年12月11日（土）、12日（日） 会場：長崎大学 文教キャンパス（長崎市） 開催形態：ハイブリッド 主催：公害資料館ネットワーク、同実行委員会 共催：長崎大学環境科学部、長崎大学核兵器廃絶研究センター、 一般社団法人日本環境教育学会、公益社団法人日本環境教育フォーラム 後援：環境省、長崎県、長崎市、五島市、ESD活動支援センター、 九州地方ESD活動支援センター、全日本博物館学会、日本展示学会、 日本アーカイブズ学会、長崎新聞社、西日本新聞社、NHK長崎放送局、 NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、長崎国際テレビ、 長崎ケーブルメディア、九州朝日放送 協力：長崎原爆資料館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、 長崎の近現代資料の保存・公開をもとめる会、 地球環境パートナーシッププラザ、九州地方環境パートナーシップオフィス</p>
概要	<p>参加人数：144名（会場参加86、オンライン58） 協働取組全国事業を契機として発足展開された「公害資料館ネットワーク」について、今年度は長崎でフォーラムが開催され、実行委員として、広報、当日の運営についての支援を行った。</p> <p><次第> 1. 現地見学（前日にオンラインツアー） 2. 基調講演 「記憶を伝える場としてのミュージアムー国際的な潮流を踏まえてー」 京都国立博物館 館長 栗原 祐司 氏 3. 分科会 ①「資料」資料の保存と継承～公害と原爆の資料から考える～ ②「カネミ油症」カネミ油症の経験に学ぶ ③「教育」平和教育と公害教育の課題点の重なりを議論する ④「原爆資料館」資料の保存と活用～「継承」の視点を交えて～</p>
開催状況の写真等	 

(2) Green Gift 地球元気プログラムへの協力

東京海上日動火災保険株式会社が取組む、CSR 活動「Green Gift 地球元気プログラム」について企画協力する。

ア、地域プロジェクトの実施状況

①福岡県プロジェクト

実施団体	北九州 ESD 協議会（福岡県北九州市）
打ち合わせ等	<p>■三者による打合せの実施 日時：令和3年7月27日（火） 形態：オンライン会議 内容：動画制作方針の合意形成</p> <p>■三者によるふりかえり会議の開催 日時：令和3年12月15日（水） 形態：オンライン会議 内容：EPO九州による情報提供及び、団体による成果報告</p>
活動成果	<p>2019年度より実施団体として活動。 新型コロナウイルス感染拡大に対応し、動画コンテンツの作成を支援した。 北九州地域の自然環境、環境保全に関する活動を動画として紹介する目的から2編の動画を実施団体が作成。 曽根干潟に生息するカブトガニを始めとした貴重な生態系、また北九州市環境首都検定に代表される、環境保全の取り組みについて活動に利用できる動画が完成し、公開された。 制作により活動団体が自然資源について理解を広げたとともに、身近な環境への気付きが団体のネットワーク拡大に寄与した。 また関係者との協働において、環境保全啓発に向けたツールを「みんなで制作した」という共感を創出した。</p> <p>■公開 北九州 ESD 協議会 Youtube チャンネル ・カブトガニ編 https://www.youtube.com/watch?v=tG-1BtUhlwo ・北九州市編 https://www.youtube.com/watch?v=2utrQW7w2a8</p>
参考画像	

②大分県プロジェクト

実施団体	NPO 法人 ABC 野外教育センター（大分県杵築市）
打合せ等	<p>新型コロナウイルス感染拡大に対応し、対面型プログラムからオンラインでの活動提供に方針を変更。</p> <p>EPO 九州による円滑なオンラインサポートと、活動団体の持ち味を生かしたプログラム提供に向けて協議を重ねた。</p> <p>■活動団体との企画調整打ち合わせ 日時：令和3年6月15日（水） 会場：アイネス（大分市） 内容：プログラム実施概要、新型コロナウイルス対応</p> <p>■三者による企画打ち合わせ 日時：令和3年7月14日（水） 形態：オンライン会議 内容：今年度プログラムの実施内容について</p> <p>■三者によるふりかえり会議の開催 日時：令和3年9月30日（木） 形態：オンライン会議 内容：EPO九州による情報提供及び、団体による成果報告</p>
開催概要	<p>下記の内容にて、集合型プログラムからオンラインプログラムへと内容を変更した。活動団体としても初めてのオンラインプログラム提供となり、障壁も多い状況であったが、大分支店との意見交換や EPO 九州によるオンラインサポートにて、円滑なプログラム提供を実施。</p> <p>今後の活動団体のプログラムの拡大に寄与する支援を行った。</p> <p>「きつきビーチエコアクション ～海洋プラごみ学習会&ビーチコーミング&エコクラフト～」</p> <p>日時：令和3年9月11日（日）15:00-16:30 会場：住吉浜リゾートパーク（大分県杵築市） 参加：23名（オンライン参加）</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. ビーチ清掃 3. 海洋プラスチックごみ学習会 4. 絵本の読み聞かせ 5. 蜜蝋ラップ製作ワークショップ 6. 閉会
写真	

③宮崎県プロジェクト

実施団体	NPO 法人大淀川流域ネットワーク
打合せ等	<p>■三者による企画打ち合わせ 日時：令和3年5月24日（月） 形態：オンライン会議 内容：今年度プログラムの実施内容について ・三者のほか、国土交通省宮崎河川国道事務所、宮崎県環境森林課が参加</p> <p>■三者によるふりかえり会議の開催 日時：令和3年11月18日（木） 形態：オンライン会議 内容：EPO九州による情報提供及び、団体による成果報告</p>
	<p>新型コロナウイルス感染拡大に対応し、活動団体による動画コンテンツ制作を支援した。</p> <p>宮崎県を流れる大淀川流域の自然環境、環境保全、そして防災に関する活動を動画として紹介する目的から2編の動画を実施団体が作成。</p> <p>動画の作成に当たっては、東京海上日動宮崎支店と活動団体とともに三者協定を結ぶ宮崎県が協力。環境政策の面から出演、資料提供を行った。</p> <p>また河川を管理する国土交通省宮崎河川国道事務所も同様に資料提供を行い、防災や河川管理の側面で貴重な情報を動画に盛り込むことができた。</p> <p>今回の制作により活動団体が体験プログラム提供以外の取り組みとして、コンテンツ制作という新しい分野に挑戦することができた。</p> <p>構想を実現できたとともに、宮崎県の本プログラム展開における共同体制を活かした充実した教材が完成した。</p> <p>EPO九州では関係者の協働を促進するとともに、具体的な動画制作についても支援を行った。</p> <p>■公開 NPO 法人大淀川流域ネットワーク YouTube チャンネル</p> <p>1. 【活動編】 https://www.youtube.com/watch?v=vYHwcj3ioAQ</p> <p>2. 【カヌー編】 https://www.youtube.com/watch?v=9oPJ5Z21qm4</p>
参考画像	

イ、全国事務局との連携

共催として本プログラムの調整、進行管理を担う日本 NPO センターからの情報提供や EPO 連絡会等における意見交換に協力、参加したほか、全国振り返り会議の企画運営に協力した。

催事名	GreenGift 地球元気プログラム 全国振り返り会議
目的	GreenGift 地球元気プログラムの全体振り返り会議へ、地方での活動支援を行う EPO ネットワークとして出席。
開催日等	日時：令和 3 年 11 月 4 日（金） 13:30-16:00 会場：オンライン会議 ZOOM 主催：日本 NPO センター
概要	<p>主催の日本 NPO センターより、次年度活動の方針や変更点の詳細について説明が行われた。関係者間で、新型コロナウイルス感染拡大の状況下、体験プログラムの提供において柔軟かつ安全な対応を行う手法について議論された。</p> <p>続いて主催より全国でのプログラムの実施状況が共有され、夏季特別企画として実施されたオンライン企画についての報告が行われた。また各地域の取り組みの状況と評価についても共有された。</p> <p>振り返り会議に参加した全国の各団体によるグループワークを行い、感染症拡大に対応してきた 2020 年度と、2021 年度の活動について共有を行った。</p> <p>地方 EPO として、各ブレイクアウトセッションの円滑な進行サポート等を実施した。</p> <p>地域の異なる団体による現場感覚を伴った意見交換や展望等を語り合う場を創出し、最終年度の活動に繋がる振り返り、意見交換が行われた。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オープニング <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・スケジュール説明 ・2021 年度の方針&主な変更点（基準変更）の説明 ・質疑応答 2. プログラム全体報告・評価 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム全体結果・夏の特別企画報告 ・各地域の取り組み状況と評価 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・実施 NPO 間の意見交換 <ul style="list-style-type: none"> 1 回目：2020 年度を振り返る（感想シェア） 2 回目：2021 年について意見・アイデアを出し合う（意見交換） 4. 事務連絡 5. クロージング <ul style="list-style-type: none"> ・閉会挨拶（東京海上日動火災保険）

6. EPO 九州の維持管理

EPO 九州の維持管理にあたって、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等に差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

運営業務の実施にあたっては、九州地方環境事務所担当官と定例会議を開催し、業務進捗の管理を行う。

ア、定例会議の開催

概ね月に1回、担当官、運営スタッフ、運営団体による定例会議を開催した。定例会議においては、運営全般に関する事項、個別事業に関する事項の他、円滑な運営に必要な事項を協議する。また、その他必要な事項についてはスタッフミーティングや個別打合せを行い対応した。

開催状況	
第1回	令和3年 4月28日（水）
第2回	令和3年 5月21日（金）
第3回	令和3年 6月24日（木）
第4回	令和3年 7月16日（金）
第5回	令和3年 8月20日（金）
第6回	令和3年 9月16日（木）
第7回	令和3年10月14日（木）
第8回	令和3年11月18日（木）
第9回	令和3年12月16日（木）
第10回	令和4年 1月18日（火）
第11回	令和4年 2月15日（火）
第12回	令和4年 3月17日（木）

イ、EPO 九州の開所状況

EPO 九州の維持管理には、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等において差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

【開所状況】		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
来所者数 （人）	開所日数	60	61	61	57	239
	相談	32	24	21	6	83
	情報収集・受取	2	0	0	0	2
	行事参加	0	0	0	0	0
	その他	4	3	0	0	7
	合計	38	27	21	6	92
パンフレット 等受付 （カテゴリー）	ともに生きる	8	5	9	8	30
	自然・生命	12	10	10	11	43
	ごみ・資源	0	4	2	3	9
	エネルギー・地球温暖化	3	7	4	3	17
	ESD・環境教育	6	5	8	2	21
	助成金・団体支援	3	6	11	1	21
	全国のEPO	3	2	0	0	5
	行政	3	3	2	2	10
	その他	5	9	5	3	22
	合計	43	51	51	32	178

令和3年度九州地方環境パートナーシップオフィス運営業務実施報告書
令和3年度九州地方E S D活動支援センター年次報告書

九州地方環境パートナーシップオフィス https://epo-kyushu.jp/ Mail: info@epo-kyushu.jp Tel: 096-312-1884	九州地方E S D活動支援センター https://kyushu.esdcenter.jp/ Mail: contact@kyushu-esdcenter.jp Tel: 096-223-7422
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2F	

令和4年3月

編集：一般社団法人九州環境地域づくり

※リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます。
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料【Aランク】のみを用いて作製しています。